

# てん菜栽培をめぐる情勢について

平成25年7月19日  
北海道農政部農産振興課  
月岡 直明

# 1. てん菜の状況

- 面積は、ピークの昭和59年の75,117haから、平成24年は59,235haに減少。
- 一戸当たり面積は、昭和59年の3.53haから、平成24年は7.44haに拡大。
- 糖度については、昨年8月下旬から10月までの記録的な高温の影響により、平成22年産の15.3%を下回り、平成24年は15.2%。

年産	面積(ha)	内直播(ha)	単収(kg/10a)	生産量(トン)	糖度(%)	歩留り(%)	産糖量(トン)	てん菜農家戸数(戸)	一戸当たり面積(ha)	北海道における農業就業人口の65歳以上比率(%)
昭59	75,117	3,522	5,378	4,040,115	—	14.81	598,334	21,263	3.53	17.1
平16	67,986	3,295	6,848	4,655,940	17.2	16.87	785,510	10,341	6.57	32.3
平17	67,501	3,506	6,224	4,201,157	17.1	16.86	708,488	10,120	6.67	34.1
平18	67,364	4,053	5,823	3,922,792	16.4	16.21	635,702	9,850	6.84	34.6
平19	66,566	4,904	6,456	4,297,222	16.7	16.50	709,198	9,416	7.07	34.2
平20	65,970	6,047	6,440	4,248,247	17.4	17.24	724,932	9,130	7.23	35.6
平21	64,442	7,197	5,663	3,649,335	17.8	17.54	639,946	8,855	7.28	35.4
平22	62,559	7,514	4,940	3,090,381	15.3	15.13	466,488	8,563	7.31	34.4
平23	60,419	7,180	5,871	3,547,377	16.1	15.92	564,670	8,214	7.36	34.3
平24	59,235	7,702	6,344	3,757,831	15.2	14.80	556,298	7,962	7.44	34.6

出展：てん菜糖業年鑑、農林水産省「農業構造動態調査」、農産振興課調べ

## 2. てん菜の作付面積減少による影響

てん菜の作付面積減少により、①食料自給率の減少、②輪作体系の崩れによる畑作物の安定生産・供給に悪影響、③道内経済の悪化の可能性があるため、作付けを安定化する必要。

てん菜の面積が減少すると・・・

① 食料自給率の減少の可能性（国民生活に必要な砂糖の安定確保に悪影響）

砂糖の食料自給率への寄与度は米、魚介類に次ぐ。平成21年度の食料自給率40%の内、米は22.5%分、魚介類は3.1%分、砂糖は2.8%分に寄与。（てん菜糖は国産砂糖生産量の8割を占める。）

② 輪作体系の崩れによる畑作物の安定生産・供給に悪影響の可能性

輪作体系の崩れ⇒収量減少、気象変動等による収入減少などのリスクが高まる  
⇒畑作物の安定生産・供給に悪影響

＜連作した場合の影響試験＞

■北見農試（4年輪作収量（小麦は6年輪作）＝100）

	小麦	大豆	てん菜	馬鈴しょ
連作収量	67	80	82	91

注：昭和34年から平成12年までの42年間における北見農試圃場での平均

■十勝農試（4年輪作収量＝100）

	小麦	いんげん	てん菜	馬鈴しょ
連作収量	76	53	84	80

注：連作開始5年目～10年目までの平均値

③ 道内経済の悪化の可能性

- ・ 製糖工場は道内に8工場あり、工場の従業員数は526人、売上高は1,126億円（平成21年度）。てん菜・てん菜糖と関連する運送業や肥料会社などとともに地域経済を担っている。
- ・ てん菜・てん菜糖の道内経済への影響額は約2,500億円（関税撤廃による北海道への影響試算（平成25年3月北海道農政部））

よって、てん菜は、北海道のみならず、我が国において重要な作物であり、作付けを安定化させる必要。

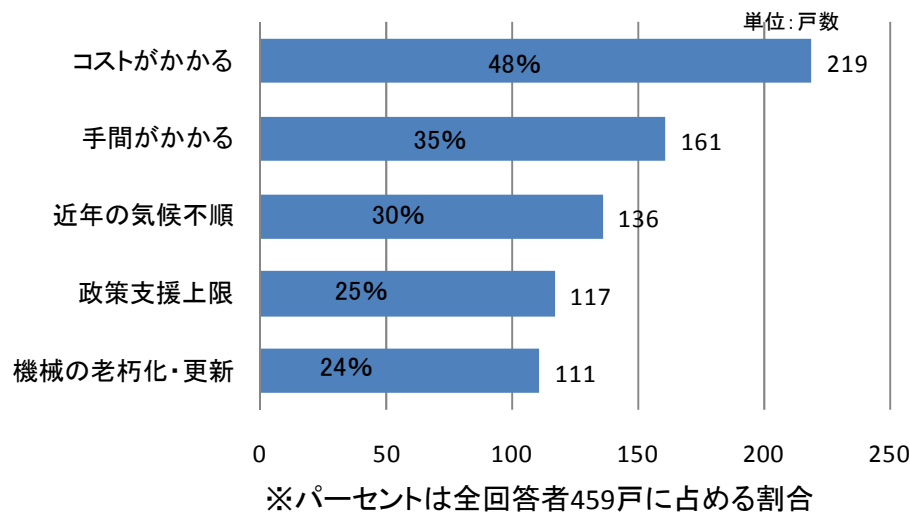
### 3. 作付面積の減少要因

生産者に実施したアンケート結果によると、主な面積の減少要因として、①コストがかかること、②手間がかかること、③近年は気候が不順であったこと、④生産支援に上限があること、⑤機械が老朽化していることが挙げられる。

＜てん菜生産者に対するアンケート＞

- ・平成23年9月「てん菜の明日を考える会」取りまとめ
- ・平成23年産てん菜耕作者8,214戸から無作為に抽出し、459戸(5.5%)から回答を得た。

問：てん菜の問題点は何ですか。(主な回答)



(手間がかかるに関して補足) 主要畑作物の所得試算  
てん菜は主要畑作物の中で、面積当たりの所得は高いが、労働時間は麦の3～4倍あることから、労働時間当たりの所得は低くなる。

	①支援額	②販売額	③経営費	④面積当たり所得(①+②-③)	⑤労働時間	⑥労働時間当たり所得(④/⑤)
小麦	43,672 円/10a	16,878 円/10a	49,052 円/10a	11,498 円/10a	3.9 時間/10a	2,948 円/時
大豆	38,266 円/10a	24,685 円/10a	43,339 円/10a	19,612 円/10a	8.7 時間/10a	2,254 円/時
てん菜	40,255 円/10a	61,060 円/10a	69,965 円/10a	31,350 円/10a	15.0 時間/10a	2,090 円/時
でん原	51,469 円/10a	25,291 円/10a	54,326 円/10a	22,434 円/10a	8.4 時間/10a	2,671 円/時

注1：支援額は戸別所得補償の支援額を面積換算したもの。

注2：販売額は平17-21年5中3平均を面積換算したもの。

注3：経営費及び労働時間は平19-21年平均。

## 4. 減少要因に対する対応方向

### 以下により作付けの安定化を図る必要

減少要因	対応方向
コストがかかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 栽培適地での直播栽培の普及(経営費約15%減)(産地資金で支援)</li> <li>○ 低コスト生産システムの確立に向けた試験研究(直播、狭畦栽培、不耕起、簡易耕栽培等省力技術の経済評価等)</li> <li>○ 適切な施肥設計の推進(最大で約1.5万円/10a削減可能)(産地資金で支援)</li> <li>○ 共励会表彰者のコスト削減にかかる優良栽培事例の普及</li> </ul>
手間がかかる (特に春先の移植・育苗作業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 栽培適地での直播栽培の普及(労働時間約45%減)(産地資金で支援)</li> <li>○ 低コスト生産システムの確立に向けた試験研究(直播、狭畦栽培、不耕起、簡易耕栽培等省力技術の経済評価等)</li> <li>○ 農作業支援組織の活用・設立促進(優良事例を地域へ紹介)</li> <li>○ 共励会表彰者の省力化にかかる優良栽培事例の普及</li> </ul>
近年の気候不順(湿害・病害多発)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 排水対策の推進(産地資金による心土破碎・明暗渠施行等への支援、道費も活用した基盤整備事業実施)</li> <li>○ 病害抵抗性品種の導入・普及(道内研究機関及び糖業による品種開発や海外優良品種の積極的な導入、てん菜協会・糖業・普及センター等による普及活動)</li> <li>○ 防除等に対する支援(甘味資源作物増産緊急対策事業)</li> <li>○ 低糖分の要因と対策についての周知(啓発パンフレットの作成)</li> <li>○ 共励会表彰者の排水対策や病虫害防除にかかる優良栽培事例の普及</li> </ul>
機械の老朽化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業機械導入支援(甘味資源作物等農業機械リース支援事業)</li> </ul>
生産意欲の低下(政策支援上限の存在、支援単価の減少等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共励会による生産者の表彰</li> <li>○ 畑地の産地資金による支援</li> <li>○ 「てん菜の明日を考える会」を基盤とした関係者全体による、生産者に対する正確な情報提供活動</li> <li>○ 経営所得安定対策の数量払いにおける下限糖度基準の見直し、営農継続支払の特例措置</li> </ul>